

周産期母子医療センター（母体・胎児部門）

1. 概要

東三河唯一の総合周産期母子医療センターとして新生児部門と妊娠中の母体・児の診断・管理・治療を行っている。近年の出生数の減少は当地域でも顕著であり当院の分娩数も減少傾向にあるが、多胎妊娠、ハイリスク妊娠・分娩、母体搬送数は減少していない。結果として長期管理を要するハイリスク妊娠やハイリスク分娩の割合は増加している。

また昨今問題となっている精神疾患合併妊婦についてもこころのケア科医師が着任されたことにより入院患者の併診が可能となった。助産師、ソーシャルワーカー、地域保健師と連携し、妊娠中より分娩後の児の成育まで切れ目ない支援を行っている。高年妊娠等の社会的ハイリスク妊婦では、親世代の高齢化による家族の問題など、様々な背景で産後の支援が受けられない褥婦を対象として開始された産後ケア事業も助産師主導で症例を重ねている。また、ハイリスク分娩のため児が新生児医療センターに入院となり母児同時に退院できない症例も多いため、育児不安の強い症例にもこのような制度を利用し母児の支援を行っている。

超緊急帝王切開は麻酔科・小児科医師、救急外来・手術室・産科病棟・新生児病棟スタッフなど関連部署の協力により迅速に対応できており、夜間・休日を問わず帝王切開決定から児娩出まで30分以内の目標を全例達成した。母体搬送は全例応需を原則としている。

これらの高度な要求に応えかつ高度な周産期医療体制を持続するため、当直2名体制を維持しつつ当直翌日の勤務緩和を行うなどスタッフ全員で協力している。

（センター長 岡田 真由美）

2. 活動報告

(1) 主な症例数

	令和元年度
超緊急帝王切開	11件
うち30分以内児娩出	11件
うち他施設からの搬送	5件
母体死亡	0件
母体搬送受け入れ	239件
母体搬送応需不可	3件
母体搬送応需率	98.8%